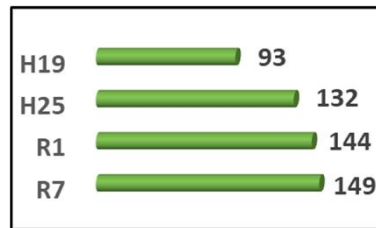


日本風景街道は令和9年度に20周年を迎える取り組みで、多様な主体が協働して地域資源を活かし149ルートを展開。

本提言は、その成果と課題を整理し、今後の方向性を示すもの。

1. 日本風景街道20年間の活動成果

- 日本風景街道は20年間、多様な主体が協働し、道路を軸に地域の景観保全と地域振興、観光振興を推進。
- 自治体境界や政策分野、官民分担論の枠に捉われない自由な活動が特徴で、地域の魅力やアイデンティティを育む成果を全国各地で創出。



日本風景街道のルート数の推移

2. 国土・地域の実情と近年の政策的動向

- 地域は人口減少・高齢化・災害頻発など深刻な危機に直面。
- 一方で、地方回帰やインバウンド観光の高まりといった潜在的な好機。
- 国は「地域・国土の存続」を重要課題とし、各省庁で地域生活圏や交通空白の解消、観光づくりなどの関連施策を打ち出し。



令和6年 能登半島地震

3. 日本風景街道の意義と課題

- 日本風景街道は、国の政策課題を先取りした先駆的取り組み。
- しかし、国交省の関与が弱まり、一部の道路管理者はルート活動に積極的に関わっていないケースも。
- デジタル化・収益性・カーボンニュートラルなど対応不十分な分野があり、社会環境の変化への順応が必要。



日本風景街道「奥能登絶景海道」オリジナルグッズの企画・販売

4. 提言

日本風景街道20周年を機に、その意義と先進性を再確認し、課題を踏まえて取り組みを再構成・再加速することを提唱。

1) 国の重点政策への日本風景街道の積極的関与を進める仕組みづくり

- 日本風景街道は、防災・環境・観光・地域活性化など国の重点政策に貢献。
- そのため、国の政策の中に日本風景街道を明確に位置づけ、活動を支える支援体制と財源を整備。



「能登半島絶景海道の創造的復興に向けた基本方針」
「道の駅」の集客強化のイメージパース

2) 日本風景街道の地域的活動とその広域連携を強化・推進する仕組みづくり

- 平時は地域の魅力の向上、非常時は復興を支えるソフト面での社会インフラとして機能。
- 全国ネットワークを強化し、情報共有・成功事例の展開・ルート間連携を推進。

3) 日本風景街道の中間支援・伴走支援の仕組みづくり

- 行政と地域をつなぐ中間支援組織が必須。
- 地整・事務所の積極的な関与を周知徹底し、職員教育を実践。
- 地域・道の駅・企業など、多様な主体が協力できる包括的枠組み。
- 地方協議会の機能を拡充し、継続的に活動を支える体制を整備。

4) NPO法人日本風景街道コミュニティの役割や活動の明確化と重点化

- 全国的な展開(政策提言・政策対話)と、各地域で目指す(モデル事例づくり)を分類し取り組みを支援。
- 制度上のパートナーとしての位置づけを明確にする必要。



日本風景街道大学の様子